

- 譜例-18の「荒城の月」前半がスムーズに弾けるようになったら、後半も練習して下さい。
練習の前に、必ず“楽譜を眺める”作業をして下さい。
そうすると、括弧でくくったA部分以外にも同じ音固き、練習の効率よくなります。
ページを戻る手間を省くため、譜例-21から続けて記譜しておきます。

譜例-23

(後半)
(1pos.)

※ここにも新しい音(*印)があります。2弦の解放弦を弾いた音「シ」です。

- だんだん“曲をひいている”気分になってきたことでしょう。
そろそろ難しい部分の「練習の仕方」をおぼえて下さい。
難しい部分は、易しい部分と同じ量(回数)の練習では弾けるようにはなりません。
それでは、易しい部分の3倍とか5倍しなければならないか…と言うと、必ずしもそでもありません。

* コツは、「難しく感ずる原因は何か」を見つけられるようになることです。
たとえば2段目、3段目のおわりの「ラ」がうまくひけないとき、たいていは次の2小節を何度も練習しようと思いますが、それでは効率が良くありません。

※ここには2つの難しくなる要因があります。
1つ目はA部分で弦が1弦から3弦へとぶことです。
2つ目は右指の順番です。

譜例-28-Aでは1弦にi、3弦にmを使うことになり、なかなかスムーズに弾くことはできません。
それでは譜例-28-Bのように、少し前から指順を逆にするとどうでしょう。

A部分はひきやすくなりますが、こんどは前小節の1~2拍「ファ〜レ」の指順がスムーズに弾けなくなります。